

事業名	平成25年度 北ブロック合同研修会
テーマ	「東日本大震災を経験して～給食施設の対応と今後の課題について～」
目的	<p>東日本大震災から、災害時の備えについて、地域社会全体で考えていくことが求められています。</p> <p>特に「災害時発生時の食事」については、平常時に備蓄食品を確保することと同時に、発生後の対応について食事提供の仕組みを予め構築しておくことが必要です。</p> <p>そこで、昨年度より北ブロック保健所では、関係機関と連携し、災害時発生時の食事提供をテーマに各組織・団体等の取り組みを共有し、連携を図ってきました。</p> <p>本年度は、被災地の特定給食施設の管理栄養士を講師に、現実には震災に直面し想定とは異なるさまざまな体験や気づきを複数の施設と共有し、今後の地域連携を強化するために、どのような準備が必要なのかを知ることを目的としました。</p>
対象・参加者数	<p>北ブロック保健所管内給食研究会会員、北ブロック給食施設関係者、各市町および保健所職員、各保健所管内地域活動栄養士会会員、食生活改善推進員団体等食に関するボランティア</p> <p>給食施設 209 施設 233 名、市町・保健所職員 13 名、食生活改善推進員 1 名、地域活動栄養士 8 名、その他 18 名 <u>合計 273 名</u></p>
実施主体	大阪府茨木保健所、池田保健所、吹田保健所、高槻市保健所、池田保健所管内集団給食研究会、吹田保健所管内集団給食研究会、大阪府茨木保健所管内集団給食研究会、高槻市保健所管内集団給食研究会
実施協力	大阪府茨木土木事務所・池田土木事務所、豊中市保健所
実施時期	平成25年9月20日（金） 14：00～17：00

(1) 基調講演

「給食施設における食に関する危機管理」～東日本大震災を経験して～

講師：石巻赤十字病院 栄養課長 佐伯 千春 氏



約 300 人の参加がありました。



東日本大震災での体験や気づきをお話いただきました。

(2) シンポジウム

① 関西大学千里山キャンパスの取組み

シンポジスト：関西大学 総務課長 奥田 昌治 氏

② 管理栄養士として、地域連携を考える

シンポジスト：(独) 国立病院機構 大阪南医療センター
栄養管理室 主任 大幸 聡子 氏

③ 「病院、介護保険施設連携して作成した災害時の危機管理マニュアル」

シンポジスト：茨木保健所管内集団給食研究会

彩都友絃会病院管理栄養士 植村 美奈子 氏

水無瀬病院管理栄養士 高橋 真由美 氏

とりかい白鷺園管理栄養士 田代 ひろみ 氏

コーディネーター：大阪府茨木保健所長 土生川 洋

コメンテーター：石巻赤十字病院 栄養課長 佐伯 千春 氏



大釜を使った 1000 人分の炊き出し訓練ではハプニング続きだったことから、平時での訓練の必要性をお話いただきました。



災害支援管理栄養士としての立場から考える地域連携についてお話いただきました。



茨木保健所管ない集団給食研究会病院・高齢者福祉部会が連携して作成した「非常時における協力体制マニュアル」についてお話いただきました。



(3) 関係資料の展示コーナー



備蓄に使える食品について食品卸会社から情報提供いただきました。



大阪府ブースでは、府が作成した「アレルギーのある人のために」「嚥下障がいのある人のために」「災害時(地震・台風)の食に備える」等リーフレットを配布し、病院における備蓄状況について報告しました。

成果・感想

想定とは異なるさまざまな体験や気づきを複数の施設と共有し、どのような準備が必要なのかを知ることができました。今後は、地域の取り組み事例を参考に、地域連携の強化を考えていきたい。

担当窓口(連絡先)

大阪府茨木保健所 広域栄養チーム (電話番号: 072-624-4668)